**「ほんとうのことば」**

HE　Lixin

2015年1月29日に神谷町光明寺で開催される【Temple vol.1】 参加のため

私が今一番大切にしている言葉は、**「知****一切法皆是自心而無所著」**という言葉です。

この言葉は、『大方廣佛華嚴經 』の巻十八・明法品第十八の中にある言葉です。

その真意を伝えるのは難しいのですが、解りやすく言えば、「人生は長編小説の如く、執着がなければ楽しく、自由自在に人生を送ることが出来る。」と読み取って頂いたら良いと思います。

　この「一切法」とは万事万物、「自心」とは仏性、「著」は付着と同じで、「無所著」とは、物事に執着しないという意味を持っています。

全体の意味としては、「世の中のすべての現象が、仏性そのものの顕われであり、一つ一つをくっつけることがなく、流されていくべきである。」ということなのです。

　これは菩薩行を実践しようとする人々が、最初に備えるべき考え方です。

このような境地になって始めて、菩薩の仲間入りが出来たといえるのです。

　私自身の体験で言えば、この言葉は、幸せへの扉を開く鍵でもあります。

處でそもそも、幸せってなんでしょうか。

無論、人によって答えはバラバラですが、名門大学を出て、大手企業に勤めて、お金には不自由がなく、結婚して子供を産んで、人並み以上の生活が出来たと思うのが、普通の人が考える幸せなのでしょう。

また幸せを手に入れるには、肩書き、お金、一軒家などの要件は必須条件だと考えるのも、一般的といえるでしょう。

しかし、わたしの答えは「NO」です。

幸せとは、あくまでも一種の感覚です。

幸せになれるかどうかは、物事を感じ取るプログラムに、鍵が潜んでいます。

一般の人々のプログラムには、一つの共通点があります。それは、見聞した物事を、すべて実在しているものとして認識してしまうということです。

人々は皆一流の俳優の如く、人生の各段階において演じる役になり切って、真剣に悩んだり、喜んだりしてその結果、役柄の人生に振り回されてしまうのです。

　一方、菩薩行を実践している人は、人生は芝居だということを見破っており、各ライフステージで役者が為すべきことを真剣に演じておりますが、あくまでも芝居だということを頭において、日々を過ごしているのです。

つまり菩薩は、一般人と異なる物事を感じ取るプログラムを持っているのです。

　身分やお金、一軒家などは、芝居の中の道具にしか過ぎなく、芝居の幕を閉じる時、全ては自分の所有物ではないし、持っていかれるものでもない。

周りの家族や親友も、自分と一緒に芝居を演じでいる脇役でしかなく、人生という物語の筋は全て、心（＝仏性）という監督によって作り出されたものだと、彼らはちゃんと判っているのです。

　こうした覚悟をしっかりと持って、人生という芝居を好演するのは菩薩です。

一般の人は、自分が演じているキャラの損得に執着するので、苦しみや楽しみに振り回されてしまうのです。

ですから私くしは、これからの人生は、「知 一切法皆是自心而無所著」という新しいプログラムをしっかりと自分の心の中に植え着け、役柄のストーリーに束縛されない生活を送ろうという想いで、この言葉を本当の理(ことわり)として、大切にして生きたいと思っております。

**コメントなどは、次のアドレスまでご連絡していただければ幸甚です。**mitiko14he@gmail.com